

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スパーク衣笠		
○保護者評価実施期間	2026年2月18日		2026年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 8
○従業者評価実施期間	2026年2月18日		2026年2月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学齢期の心身の変化と、学校・家庭での生活状況に寄り添う個別支援体制	学校での学習や集団生活による疲労度、また日々変化する情緒面に配慮し、その日のコンディションに合わせた柔軟なサポートを徹底している。	保護者の方と雑談する時間を増やし、学校生活の中では見えにくい「お子様やご家庭の本音」を汲み取れるよう努める。
2	「スパーク運動療育」の特化による、学齢期の情緒安定と自己肯定感を育む専門支援	学校生活における集団適応や学習等でストレスを抱えやすい学齢期のお子様に対し、運動を通じたエネルギーの発散と情緒の安定をサポートしている。	現場での「気づき」をより具体的に仕組み化するため、短時間のケース会議を定例化する。属人的な対応に留まらず、チーム全体で常に最適な支援へとブラッシュアップし続ける機動力を高めていく。
3	小規模組織を活かした迅速な意思決定と、現場改善における高い機動力	組織がコンパクトであることを強みとし、療育現場で気づいた課題や送迎体制の改善点、保護者様からのご提案などを、即座に会議で共有し、実行に移す「スピード感」を大切にしている。大規模な事業所とは異なり、承認プロセスに時間をかけず、全職員の合意形成を迅速に行うことで、その日のうちにも改善できる体制を維持している。	朝礼や終礼など短時間のミーティングも有効活用する。また、定期的なミーティングを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	社内の教育体制が不十分な点がある。	外部の運動療育士認定講座やOJT研修に依存しており、社内で療育技術を深めるための仕組みがない。	社内でも療育を深めるための事例検討会などを開催していく。 終礼時に職員間のフィードバックの時間を持つ。
2	保護者への療育後のフィードバックが不十分な場合がある。	・フィードバック内容について社内での話し合いが不十分だった。 ・パート職員へフィードバックの教育をしていなかった。	パート職員へフィードバックのやり方を伝え、指導していく。
3	採用・広報力の不足による人材確保の遅れ	少人数で運営する中で、採用と広報が後手に回ってしまった。	採用と広報の優先順位を上げていく。業務の棚卸し、職員間での業務分担の再編を行う。